

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム松風
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	千葉県香取市津宮1932-1
記入者名 (管理者)	増田 静江
記入日	平成 21 年 2 月 6 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1月には近所の香取神宮へ初詣。「刺身が食べたい。お鮓が食べたい。」などのリクエストにお答えしての出前や外食を計画するなど入所者の声を反映させて地域に関わるようにしている。また、散歩途中に近所の方々に花をいただくことが多いので、今後はこちらから地域に根ざした働きかけが出来るよう計画している。	○	入所者ひとりひとりに个性的な花壇を作り、本人が楽しむと同時に、近所の方々に野菜や花をあげたり、もらったりしながら地域に根ざした交流を楽しんでいきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と看護職・介護職リーダーが月に1度は話し合いをし、理念の実践に向けて具体的な話し合いをしている。	○	今後も話し合いを続けていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の面会時及び地域の方々の面会時には、外出時の写真や話を通して、地域に積極的に関わっていることをアピールしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を回す際、またご近所の方が訪問された際には興味のある方に施設内の見学を勧めている。	○	近所の方が訪問された際には、時間に余裕があるようなら一緒にお茶を飲みながら交流を深めたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の際、民生委員の方に聞いてみたが自治会、老人会、地域行事などあまり活発な取り組みはされていない地域であるとのこと。	○	グループホームに対する地域の期待が感じられるので、日々のリハビリ体操やお茶、お菓子づくり、映画鑑賞、また年中行事などに民生委員と相談しながら地元の人々をお誘いしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアの受け入れを積極的に行っている。地域の草抜きやごみ拾いに参加し、高齢者の暮らしぶりの情報を聞いている。	○	地域で畑作りや花壇作りに熱心に取り組んでいる高齢者を見かける。ホームにおいても、畑や花を作り近所の方と交換するなどを通して、お互いに楽しみや生きがいを見出していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を踏まえて、職員紹介コーナーの作成、ご家族への手紙などを実施している。また、毎日のミニカンファレンスを通して1日の行動を振り返り、職員がお互いに改善点を指摘しあっている。	○	ミニカンファレンスを継続することで、より具体的な改善点を見出していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は、なかなか人が集まらず運営推進会議の実施は1度のみ。民生委員1名、市役所職員1名、他は会社関係者であった。人数が少なかったからこそ、密な話し合いが出来た。	○	民生委員とグループホームが良く話し合っ、地域高齢者との交流の機会を深めていきたい。市役所では、どんどん介護研修を催して欲しい旨を伝えた。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議で提案はしたが、その後市役所において介護研修を企画していただいたかの確認等はしていない。	○	今後は、会議以外でも市役所に出向きグループホームからの声を伝えていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在入所者2名が成年後見人を決めるため、家庭裁判所が関わりをもっている。親族とは密に連絡をとり、相談・報告をしている。	○	今後も、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を学ぶ必要な方には働きかけていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のための事例集などの冊子を読み、職員は学びを深めている。また、虐待と事故の区別がつくよう事故後はすぐに管理者へ報告している。	○	職員の言動を観察し、虐待を予防できるように見守っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはもちろん、その後においても常に不安や疑問点を把握し、できる限り答えている。	○	今後も続けていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者が自分の意見や要求を職員によく訴えるようになってきた。入浴の順番、食事の内容、介護への苦情などが聞かれる。毎日のカンファレンスにおいて職員間で話し合っている。	○	毎日のカンファレンスを通して、入所者ひとりひとりの要望により的確に応えられるよう努力していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態は面会時に報告している。金銭管理は個々に出納帳を保持し金庫に保管している。基本的に家族が面会に来た際や、2月に1度の手紙による報告をしている。また、急な怪我や病気の際には担当医の往診や意見を反映し、家族と協力しながら受診している。	○	今後も家族との密な連絡を続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族に声を掛け、負担に感じているところがないかを尋ねるようにしている。昨年、受診へ同行することを負担に感じている家族がいたので、所内へ往診に来ていただくことで納得していただいた。	○	昨年度の課題として新聞の発行を考えたが実施していない。その理由は、個々の生活の仕方に違いがあり全員で行動する機会が少ないためである。よって、全員の様子を記載する新聞より、個々の近況を伝える手紙の方が、当ホームに適しているので手紙を続けていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議では、職員が意見を出し合い、経営者・管理者に意見を述べている。	○	入所者の生活状況や言動など、業務に関することなど具体的な様子は、職員から管理者に伝えていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入所者の健康状態の変化、行事などに合わせて職員体制を考え、柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入所者が話し掛けやすい職員を毎日配置できるような勤務表を作成している。新しい職員が配置された時には、入所者への気配りや相手の気持ちに配慮して関わるように指導している。	○	職員の離職時、入所者にはさりげなく伝える。入所者馴染みの職員が辞める時には事後報告とするなどの配慮をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修を行っている。外部研修は積極的に受けるよう職員に促している。研修後、レポート提出をし、資料は全員が読めるようにしている。会議中研修を1度実施している。</p>	○	<p>新人オリエンテーションを実施しレポート提出を促す。香取市が主催する研修など近場の研修には積極的な参加を促す。職員のレベルや意欲により受けたい研修も異なるので、個々に合ったものを薦めていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香取市グループホーム連絡会を通して、同業者と交流を深め情報交換している。また香取市のみならず近隣の同業者が主催する勉強会に出席し、現場レベルでの困難事例への学びを深めている。</p>	○	<p>香取市には多くの高齢者福祉施設があるため、市役所での勉強会や研修会を増やせるように働きかけていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各職員に希望の休みを聞いたうえで勤務シフトを組んでいる。運営者は、各職員から個人的に話しを聞くように努めている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の能力を最大限に発揮できるよう、行事・誕生会・係りなどで役割分担をしている。また能力に応じた研修を推奨している。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前に自宅訪問をしている。本人・家族が不安のないように傾聴し、要望を受け止めるようにしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が困っていることを十分に聞き、どんな些細なことでも言えるような雰囲気作りに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の要望を傾聴し、納得のいくサービスが提供できるように努めている。また、他のサービス利用の必要性があるときには情報提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学していただき、体験入所もできるようにしている。その中で不安感を軽減できるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、過剰な介護にならないように観察眼を磨き本人の出来るところは見守りや一部介助としている。個々の生活歴や得意分野に働きかけ、職員とともに体操や作業をすることで一緒に楽しめることを取り入れている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、共に利用者本人を支えるため情報を共有している。	○	家族の希望も伺い、互いに相談しあい支えあえる関係を保っていききたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の要望を十分に取り入れる。外泊なども大いに奨励し、本人の思いを十分に考慮している。個別相談の機会も設けて関係を深めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々には来所していただき、継続した付き合いができるようにしている。	○	一人ひとりの思いを聞き入れて、その思いを叶えてあげられるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で好き嫌いの感情が明らかになっている。話しやすい相手と隣り合わせの席にしたり、他者に迷惑を掛けてしまう利用者は職員の側に居てもらうなどの配慮をしている。	○	利用者一人ひとりを尊重していききたい。また利用者の感情の変化に気配りしながら日々明るい気持ちで過ごせるように関わっていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後、本人や家族は疑問や不安を多く抱えている。介護支援専門員が継続的に関わりその都度、問題解決をしている。	○	契約が終了した家族へ、運営推進会議参加のお知らせ文書を配布している。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の時間、入浴の順番、就寝時間など随時本人の希望を聞きながら可能な限り要望に応えられるように介入している。	○	個人の介護記録の中に、本人の言葉を記入し、思いや意向の把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の仕方や本人馴染みの家事や散歩など、ホームでも続けられることを体調や気分を見ながら本人達と共に行っている。	○	デイサービスを利用していた方には声を掛け、本人が希望する曜日や行事の際にはお連れしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	規則を設けず、本人のその日の体調・精神状態に合わせて無理のない生活を送れるように毎日のカンファレンスで話し合い、実行している。	○	毎日のカンファレンスでは、入所者の体調・精神状態に関する気付きを出し合い、より細かい部分まで気付けるように職員一同努力を続けたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見を聞き入れながら、本人がよりよく暮らせるための計画となるよう、介護支援専門員が介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院後、状態に変化がある場合には見直しを行っている。	○	3ヶ月に1度の見直しをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践については、個別記録に毎日記入している。その日のカンファレンスで、介護や関わりの改善点を挙げ、業務日誌に記載することで、全職員が把握し改善した内容を実施できるように努力している。	○	日々の気付きや工夫を大事にし、看取りまでして欲しいというご家族の期待に応えていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスとの交流、家族とともに墓参り、年末年始の外泊、親族の葬儀に出席など本人の希望を聞き家族と連絡を取り合いながら、希望に応じた外出が出来るように努めている。	○	本人が「家に行きたい」との希望がある場合、家族と相談のうえお連れしたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	11月には香取市文化祭を見学し、多くの笑顔が見られた。民生委員との連携を強め、地域とグループホームとの接点を増やしていきたい。地域ボランティアを受け入れている。	○	さらに小・中学校や地域ボランティアへの協力を呼びかけていきたい。中学生の職場体験学習の受け入れもしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	研修の参加や訪問などにより、他の介護支援専門員との話し合いをもって支援に活かしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	前年度の運営推進会議には、地域包括センターからの出席はなく話し合いは出来ていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き入れ、病院へ月に1度受診に同行する方や、毎月往診がある方や、3ヶ月に1度往診がある方の3タイプで医療を受けている。	○	グループホームでの看取りを希望する家族の要望に応えられるよう、終末期や病状悪化の時には、担当医と連絡を密にし本人・家族の望む死を支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	介護認定審査会の委員を務めている医師が担当医になっており、往診をしている。その都度医師に相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師を配置しており、入所者の健康管理や家族への連絡、医師との話し合いをしている。また緊急時の連絡・受診は迅速に行っている。	○	介護職員に薬の作用・副作用、医療の知識を伝え、看護師との連携がとれるように努めていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合には、管理者あるいは職員が病院を見回り、病棟看護師との情報交換をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の入退院などをきっかけとして、最期の話を詰めている。また医師とも病状悪化の場合に備えた話し合いを随時している。家族には、緊急時における事前確認依頼書を配布し、最期の時の意志確認をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	認知症の進行に伴い安全の確保が難しくなっている。個々の進行度に合わせ家族と相談のうえ、終末期にして欲しいこと・できること・できないことを考えている。その上で担当医の協力を仰ぎながら終末期の備えをしている。	○	職員全体出来ること、困難なことを話し合い、医療機関との連携を大事にしながらグループホームでできることを考えていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えは本人にとって大きなストレスである。そのため本人の不安を解消できるような声掛けをしている。また家族にはまめに顔を出してもらうようにし精神的な安定が図れるように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた言葉掛けをし、職員の敬意を欠く言葉掛けに対しては管理者がその都度指導している。記録には丁寧語を用いたり、氏名をイニシャルで記載するなどの配慮をしている。	○ 個人情報守秘義務の徹底を図っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の理解度に合わせた説明を行い、思いや希望を聞いた上で、安全・安楽を考慮した介護介入をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則を押し付けず、出来る限りその人らしい1日が過ごせるように希望を聞きながら介入している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類の選択はできる方には本人にしてもらい、理容に関しては、本人馴染みの美容室へ同行したり、希望があれば美容師を招きホームでヘアカットや顔剃りをしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	箸の選択、お茶の配膳など入所者が負担に感じない程度を職員とともに行っている。また、手作りのおやつは入所者と職員が楽しみながら一緒に作り上げている。	○ 季節を感じられるような、桜餅や水菓子などにも取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	咳がでる時には、カリンやゆずのはちみつ漬けを飲み、お茶は本人の好む温度のものを提供している。おやつは食べたいものを聞いてから作るようにしている。	○ 年中行事や季節に応じた食事やおやつをどんどん献立に取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄表で24時間の排泄パターンを把握している。量や性状を記載し異常時には内服薬で調整している。	○	自立での排泄行為が困難になりつつあるが、自分でトイレに行きたい方に対する安全面に配慮した働きかけが課題である。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を聞いたうえで入浴介助している。入浴を勧めることで不穏が出てしまう場合には、それ以上無理強いしていない。	○	本人の意思や希望を尊重しながら、共同生活を乱さないように上手に働きかけていくことが課題である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の疲労度や表情を観察し、その時々疲労度に合わせた休息や就寝を促している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	小学校・幼稚園教師をしていた方には童謡・唱歌・折り紙など。民謡やことわざ、福笑いやこま回し、花や野菜の収穫など、個々に合った気晴らしが出来るように趣味や遊びを取り揃えている。	○	ホーム内にいると、他者の動向が気になり不平不満をもらしている方がいる。その解決策として、今年度は園芸療法に取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には外出の際、自分の財布を携帯してもらう。金銭管理は難しいが自分の財布がないと不安に陥る方には、携帯してもらうが支払いは職員が代行するなど、個々に合わせた支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候に合わせた外出計画、季節に合わせての散歩、買い物へのお誘いなどホーム内に籠らないように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、チューリップ畑、水生植物園、鯉のぼり、ぶどう狩り、香取市文化祭、外食など様々な場所へ出掛けることができた。	○	今年度も新たな外出先を開拓中です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親類・家族に電話がしたいとの要望があれば番号を確かめたうえで繋いでいる。定期的な手紙には一筆書いていただくなどして、家族の反応も期待している。	○	遠方に在住の家族は、なかなか来所できずに入所者の身を案じているので、写真入りの手紙の送付を進めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方々には、介護支援専門員がまめに連絡をし、いつでも気軽に遊びに来ていただけるように取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを定め職員に周知徹底している。そのうえで、危険防止のために必要だと判断した際には、家族に相談のうえでベット柵などの設置をしている。	○	管理者を中心に研修などを通して、身体拘束に関する正しい知識をつけていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年は、近隣住人への迷惑行為があったため玄関に鍵をかけることもあった。しかし、全職員が鍵を掛けることの弊害を理解しているので徘徊する入所者の退所後は、日中玄関に鍵をかけることはしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜問わず全入所者の所在を確認しており、安全を第一とした見守りを心掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	脱走のため鍵開けに使われる道具を一時片付けたり、お尻拭きでトイレを詰まらせたことから目の届かない場所へしまうなどの工夫をしている。しかし、規制するような行為は続けない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息については個々に応じた解決策を職員間で話し合い実施している。服薬は職員が見守り、危険薬物・消毒薬に関しては鍵のかかる保管場所を設けている。行方不明、火災予防に関しては、具体的な話し合いはなされていない。	○	避難訓練を実施したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルをもとに、看護師指導のもと心肺蘇生法や怪我の程度に応じた応急手当をしている。	○	昨年度は人数の確保ができずに消防署員を招いての研修が出来なかったのは是非今年度は行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	具体的な大規模災害を想定した避難訓練はまだ行っていない。	○	地域の方にも声を掛け、グループ内での避難訓練ができるとうい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒・転落による骨折のリスクを家族に説明し、予防的な安全策を提案し、家族の理解を得たうえで実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変時には、速やかに看護師と連携して対応し、管理者に報告している。日々の変化は業務日誌に記載し毎日各職員が把握し情報の共有が図られている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書およびくすりの事典を参考に、入所者が使用する薬の理解に努めている。各人の内服は見守りを基本とし、服薬チェック表に記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の食事量・運動量・体調を考慮し便秘薬の調整をしている。下痢や便秘の原因をカンファレンスで話し合い飲食物の工夫に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕の口腔ケアは個々の自立度に応じた働きかけをしている。昼は自立している方のみが、自ら口腔ケアしているのみ。	○	肺炎予防のためにも積極的に口腔ケアの支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方には甘い物と食事量の制限をしている。高齢者は口渇を感じにくいので、3度の食事と2度のお茶の時間に水分摂取を促し、湯上りにも水分補給をしている。配膳の量は本人の食欲に合わせた工夫をしている。	○	脱水予防のため水分摂取を積極的に促し、一般状態や尿量を観察し脱水状態を見逃さないようにしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに予防と対応の記載がある。O-157・ノロウイルス対策として次亜塩素酸ナトリウムによる毎日の消毒、食器乾燥機による高温殺菌を徹底している。また、インフルエンザが流行る季節のうがい・手洗いを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため、調理器具・食器の次亜塩素酸ナトリウム消毒や高温殺菌をしている。生よりは加熱調理済みのものを食事に多く取り入れている。作り置きをせず、3食毎に作ったばかりのものを提供している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には利用者と一緒に作った花壇があり、花を見ながらスロープもしくは階段を昇りバリアフリーの玄関に通じる造りになっている。	○	今年度は玄関先だけでなく、通りからも見える場所に入所者個々の花壇を作る予定である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるホールの使用は21時までとし、消灯・消音している。食卓上には、季節の花を入所者とともに飾り、壁面は季節に合った飾りを入所者とともに作り、ほぼ毎月壁面飾りを作り変えて季節の移ろいを感じられるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中にくつろげる場所として、ソファ・窓際の椅子・食卓を備えている。朝食後には本人の希望を聞き、好みの場所へ移動していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品は、家族と相談のうえ馴染みの家具などを置いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の換気扇はまめに作動させている。またエアコンの温度設定は職員がしており適温が保てるように配慮している。冬季空気が乾燥している間は各室に加湿器を設置し乾燥を防いでいる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーとなっている。ホールの両脇とトイレには手すりが設置してある。ホールは広々しており車椅子での自走や歩行訓練がしやすい構造になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分でやりたいとの意志を尊重しながら、見守りを基本とし過剰な介護とならないよう職員一同配慮している。個々の得意分野を活かし、洗濯物たたみ・お菓子作り・飾り作り・お茶の配膳など、押し付けにならないように職員とともに作業している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑の作物は、利用者が収穫を楽しんでいる。気候が暖かくなるとベランダに出てのんびり外を眺めたりしている。	○	個々の花壇を、入所者とともに作り上げることを計画中である。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

夕食後の映画鑑賞を続けている。冬は足元の暖かいソファに座り、暖かい季節には、大画面で楽しむこともある。また、地域の方々には温かく見守られ、期待も感じられるので、民生委員に相談しながら地域に働きかけた勉強会を開きたいと考えている。家庭から、病院から、社会福祉協議会から、認知症の方の入所希望があり社会全体がグループホームのような高齢者施設に期待が高まっていることがわかる。グループホーム松風職員一同、社会の期待に応えられるよう、ご本人・ご家族が満足できる介護を目指し、一瞬一瞬を大切に人と関わっていきたい。